

令和1年度 第1回岐阜市立図書館協議会議事概要

開催日時：令和1年7月22日（月）午後14時00分～16時00分

開催場所：ぎふメディアコスモス 第一会議室

出席者：アンドリュー・デュアー委員長、高橋綾子副委員長、栗本聖士委員、
内沼晋太郎委員、石田晴美委員、中井孝幸委員、中村正信委員、林恵哲委員、
松井勅尚委員、山田智直委員、天野治子委員、前田利之委員、武山康弘委員
（事務局）吉成館長、川合副館長、中村係長、長尾係長、岸田係長、白崎係長、稲川係長、
今尾副主査

傍聴人：1名

議事概要：

■報告や事務局提案に対する委員からの意見

1 2019年度事業計画

- ・大和市との同盟について、同盟関係の位置づけを明確にしていく必要がある。
→他の都市も加わっていくことになると思う。今後大和市と協議を進めていきたい。（事務局）
- ・なぜFC岐阜を応援するのかを捉えなおすことができるコーナーなどがあるといい。
- ・FC岐阜との連携について、サッカーが好きな子どもにもスポーツに関する色々な世界がある事を図書館で知ってもらうなど視野を広げることできる。
- ・利用者の年齢などデータを細かく出し、分析していきながら戦略的に今後の運営、事業計画を行ってほしい。
- ・40万都市に対して図書館の数は十分ではないので、地域にある学校を活用できる学校連携事業をしっかりとやっていく必要がある。子どもたちの読書環境のサポートには公共図書館だけでなく学校図書館へのサポートが必要。
- ・インターネットで図書館の本を予約できるのだから、受け取りを学校でできるようにすれば利用が増えるのではないか。子どもたちは学校図書館に行ける時間もあまりない。学校に素早く本が届く仕組みがあると使い勝手が良くなる。
- ・遠方の子が中央図書館に来るためには親に依存することになる。PTAなど保護者に対して講演など企画してもいい。ボランティアが活躍できるかもしれない。
- ・保護者が学校連携の仕組みを知ることが入口になるのではないか。
- ・中学校区くらいが生活圈となるので学校図書館に地域図書館の役割を持たせられるといい。
- ・視覚障がい者サービスの「対面読書」が予約制になっているが、ふらっと来て利用できるような体制になっていると利用が増えてくるのではないか、検討してほしい。
- ・共読事業について、とても良い取り組みで期待している。読書会などを行う時にうまく相手から言葉を引き出すのが難しいと感じておりファシリテーターの育成なども行うといいと思う。

2 集いのワークスペース特集本棚の整備

- ・実用書が中心になるのか。岩波ジュニア新書などYA向けの本にもいい本がある。
→実践的なものだけでなく文学や思想・哲学などもそろえていく。ターゲットを就

職氷河期世代としてはいるが実際には幅広い人にも見てもらえる場となる(事務局)

- ・ 岐阜市のマスタープランにこの事業をしっかりと位置付けて予算の確保をしてもらいたい。什器の予算はついているが、運用するための人の配置に係る予算がさらに必要ではないか。
- ・ 従来の図書館のようにカテゴライズされない、ライフプランや政治参加など考えさせられるようなものができるといい。
- ・ わくわくできる空間、コミュニケーションできる空間づくりをしてほしい。
- ・ 本で人とまちを繋げる、ロスジェネ世代をターゲットに岐阜市をつくっていくなど、ビジョンを明確に押し出していくといい。
- ・ 歴史博物館や市民病院、消防署など市の他施設との連携し選書を行うなどしてはどうか。またこの場所を整備するキュレーターなりファシリテーターも必要。色々な人が関わる「みんな」でつくる本棚にしてほしい。
- ・ 大学のラーニングコモンズだと喋ることができる。ここがそういう場所になることはとても魅力的だが、吸音など音がもれないための工夫はした方がよい。
- ・ あえてこの場所で図書館の職員が何かクリエイティブな仕事をしているところを見せてもいい。

3 その他

- ・ ショートショート発表会について、どのような学校からどれだけ応募があるかなど校長会なりで示してもらえると啓発が進むと思う。
- ・ 夏休み中の学童保育の子たちがすごく暇になるのでボランティアの派遣などをすると図書館の宣伝にもなっているのではないかと。